

平成31年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年8月3日

上場会社名 株式会社免疫生物研究所
 コード番号 4570 URL <http://www.ibl-japan.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役事業グループ管理本部長
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月13日

上場取引所 東
 (氏名) 清藤 勉
 (氏名) 中川 正人
 TEL 0274-22-2889

配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	171	29.4	35		35		44	
30年3月期第1四半期	132	5.7	59		59		61	

(注) 包括利益 31年3月期第1四半期 44百万円 (%) 30年3月期第1四半期 61百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	5.31	
30年3月期第1四半期	8.27	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第1四半期	3,192	2,042	63.8
30年3月期	3,295	2,017	61.1

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 2,038百万円 30年3月期 2,013百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		0.00		0.00	0.00
31年3月期					
31年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年 3月期の連結業績予想(平成30年 4月 1日～平成31年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	982	29.6	25		24		39		4.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社グループの業績予想は、「中期経営計画」をベースに作成しており、その達成(施策等)においては、年間を通して評価を行っております。そのため、業績予想は通期業績予想値のみを開示いたしました。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期1Q	8,420,090 株	30年3月期	8,333,090 株
期末自己株式数	31年3月期1Q	1,130 株	30年3月期	1,130 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期1Q	8,408,443 株	30年3月期1Q	7,418,460 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、3ページの「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(追加情報)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間の当社グループの業績につきましては、動物用体外診断用医薬品の牛海綿状脳症測定キット(BSEキット)の売上や、海外向けにEIAキットや抗体といった研究用試薬の売上が好調であったこと等により、売上高は171,780千円(前年同期比29.4%増)となりました。利益面においては、製造設備等の購入について、資産計上は行わず、一括費用処理としておりますが、売上原価や販売費及び一般管理費において経費節減に努めた結果、営業損失は35,971千円(前年同期は59,776千円の営業損失)となりました。また営業外損益においては、米ドルの為替の水準が前期末と比較して若干の円安で推移したことから外貨建資産や債権において為替差益が発生したこと等により、経常損失は35,624千円(前年同期は59,976千円の経常損失)、特別損益においては、当社グループが保有する土地の評価額が低下したことによる減損損失を計上したこと等により、親会社株主に帰属する四半期純損失は44,717千円(前年同期は61,390千円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。当社グループにおきましては、まだ年度の4分の1を経過した段階ではありますが、過去の業績の実績や計画の推移等から勘案し、当第1四半期連結累計期間は損失を計上しておりますが、第2四半期連結会計期間以降において当期の連結業績予想達成に向け、順調に推移するものと考えております。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

・ 診断・試薬事業

当事業においては、研究用試薬関連及び医薬用関連ともに順調に売上を計上することができました。研究用試薬関連においては、海外市場において、海外取引先との関係構築や海外学会等への積極的な参加、さらに新規販売代理店との契約締結等に注力してまいりましたが、当第1四半期連結累計期間において、大幅に売上が増加し成果が現れております。一方、国内市場については主力の抗体関連製品が若干減少いたしました。医薬用関連においては、主力である動物用体外診断用医薬品の牛海綿状脳症測定キット(BSEキット)の売上を計上することができました。

当事業の販売につきましては、国内の研究テーマにより時期的な浮き沈みがあり、不安定な一面もありましたが、海外販売の展開が徐々に増加してきたことにより、安定した販売を見込めるようになりました。今後も海外販売に注力し、安定した経営を目指してまいります。

その結果、当セグメントの売上高は135,435千円(前年同期比33.9%増)となり、営業利益は15,795千円(前年同期は9,850千円の営業損失)となりました。

なお、当事業においては、継続して安定した利益創出を目指します。

・ 遺伝子組換えカイコ事業

当事業においては、各種抗体等の受託の売上が計上されました。当事業においては現段階においては、遺伝子組換えカイコを用いた医薬品製造を実現させるべく、抗HIV抗体をはじめとするバイオ医薬品開発、ならびに、その製造技術の開発を進めているところであり、事業の重点を研究開発に置いております。

その結果、当セグメントの売上高は3,890千円(前年同期比41.0%減)、営業損失は48,136千円(前年同期は44,728千円の営業損失)となりました。

なお、当事業においては、継続的に積極的な研究開発費を投じ、中長期的に企業価値の向上を目指します。

・ 検査事業

当事業においては、主力事業の血中リポタンパク質プロファイリングサービス「LipoSEARCH」において大型案件の受注があり、一部を売上計上することができました。今後につきましては、従来に引き続き、診断・試薬事業との営業活動を共有化し、学会展示によるプロモーション活動を積極的に行い、双方のマーケット市場において販促活動を強化してまいります。その結果、当セグメントの売上高は31,347千円(前年同期比39.8%増)、営業損失は1,140千円(前年同期は3,005千円の営業損失)となりました。

なお、当事業においては、通期において利益創出を目指します。

・ 化粧品関連事業

当事業においては、「ネオシルク®ーヒトコラーゲンI」配合化粧品「フレヴァン」シリーズの売上高につきまして、国内通信販売の売上が減少いたしました。今後につきましては中国におけるネオシルク®ーヒトコラーゲンI配合化粧品「フレヴァン」シリーズの販売が承認されたことから、第2四半期よりいよいよ中国向けの販売が開始されることとなりました。中期経営計画でお知らせしておりますように今後は大幅な売上の拡大が見込めるものと考えております。

その結果、当セグメントの売上高は2,033千円、(前年同期比47.0%減)、営業損失は2,729千円(前年同期は2,432千円の営業損失)となりました。

なお、当事業においては、通期において利益創出を目指します。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計年度末における資産の残高は、前連結会計年度末比3.1%減の3,192,765千円となりました。この主な要因は次のとおりであります。

現金及び預金が110,220千円減少したこと、及び受取手形及び売掛金が14,121千円減少したこと等によるものであります。現金及び預金の減少につきましては、親会社株主に帰属する四半期純損失を44,717千円計上したことで現預金の収入よりも支出が多くなったことや借入金の返済36,522千円、法人税・法人住民税・事業税・消費税等の税金の納付31,301千円等によるものであります。当社グループの当連結会計年度の計画においては親会社株主に帰属する当期純損失39,000千円としており、固定資産への投資等や棚卸資産等の増減や税金の納付等を勘案いたしまして、資産の水準は現在より若干減少するものと考えております。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債の残高は前連結会計年度末比9.9%減少し、1,150,278千円となりました。この主な要因は次のとおりであります。

新株予約権の行使により転換社債型新株予約権付社債が69,426千円の減少、借入金の返済により長期借入金が36,522千円減少したこと等によるものであります。今後の負債の水準は、当第1四半期連結会計期間同様、借入金の返済や新株予約権の行使等により減少していくものと考えております。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は前連結会計年度末比1.2%増の2,042,486千円となりました。

この主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により繰越利益剰余金が44,717千円減少した一方、新株予約権の行使により資本金及び資本準備金がそれぞれ34,713千円増加したこと等によるものであります。

今後の純資産の水準につきましては、新株予約権の行使や当期の利益計画等を勘案し、増加していくものと考えております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年5月14日付で公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,510,029	2,399,809
受取手形及び売掛金	203,114	188,993
商品及び製品	48,612	54,818
仕掛品	122,986	123,699
原材料及び貯蔵品	106,099	111,301
その他	6,939	23,046
流動資産合計	2,997,780	2,901,668
固定資産		
有形固定資産		
土地	122,274	114,019
有形固定資産合計	122,274	114,019
投資その他の資産		
投資有価証券	105,266	105,266
繰延税金資産	3,001	3,001
その他	66,691	68,808
投資その他の資産合計	174,959	177,076
固定資産合計	297,234	291,096
資産合計	3,295,015	3,192,765
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,772	11,254
1年内返済予定の長期借入金	146,088	146,088
賞与引当金	13,633	7,910
その他	134,659	112,532
流動負債合計	302,154	277,785
固定負債		
長期借入金	182,956	146,434
転換社債型新株予約権付社債	790,121	720,695
退職給付に係る負債	2,006	5,364
固定負債合計	975,083	872,493
負債合計	1,277,237	1,150,278
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,636,302	2,671,015
資本剰余金	1,668,682	1,703,395
利益剰余金	△2,289,625	△2,334,342
自己株式	△1,990	△1,990
株主資本合計	2,013,369	2,038,078
新株予約権	4,408	4,408
純資産合計	2,017,777	2,042,486
負債純資産合計	3,295,015	3,192,765

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	132,764	171,780
売上原価	62,430	74,049
売上総利益	70,333	97,730
販売費及び一般管理費	130,110	133,702
営業損失(△)	△59,776	△35,971
営業外収益		
受取利息	1	1
為替差益	54	2,303
還付加算金	124	—
固定資産税等還付金	223	—
その他	210	127
営業外収益合計	614	2,431
営業外費用		
支払利息	499	369
新株発行費	314	1,695
その他	—	20
営業外費用合計	813	2,085
経常損失(△)	△59,976	△35,624
特別損失		
減損損失	576	8,255
特別損失合計	576	8,255
税金等調整前四半期純損失(△)	△60,553	△43,879
法人税、住民税及び事業税	837	837
法人税等合計	837	837
四半期純損失(△)	△61,390	△44,717
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△61,390	△44,717

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
四半期純損失(△)	△61,390	△44,717
四半期包括利益	△61,390	△44,717
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△61,390	△44,717
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、当第1四半期連結累計期間において第2回無担保転換社債型新株予約権付社債の新株予約権の行使に伴い、87,000株の株式が増加しております。この結果、当第1四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ34,713千円増加し、当第1四半期連結会計期間末において資本金が2,671,015千円、資本剰余金が1,703,395千円となっております。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。